実践 4

和本の基礎知識

加藤弓枝（名古屋市立大学）

ここでは、知っておくとよい用語や、授業での使い方、手に入れ方など、和本に関する基礎知識について取り上げます。

1　和本入門——和本についてイチから学ぶ

書物に関する学問のことを書誌学と呼びますが、この学問で大切にしなければならないのが用語の定義です。書誌学の世界では、使用する用語が研究者や研究機関によって異なる場合があります。ここでは、国文学研究資料館編『和書のさまざま——国文学研究資料館通常展示図録』（国文学研究資料館、二〇一八年）と、堀川貴司『書誌学入門——古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版、二〇一〇年）により説明します。この両書の間でも用語が異なることがありますが、その場合は、無料で一般利用できる電子展示室などをWEB公開していることから、国文学研究資料館の用語を原則として使用します。

まず、最も基本となる「**和本**」という用語について確認しましょう。和本とは日本の古典籍のことですが、似た言葉に「**和書**」があります。和本はモノとしての書物がどこで作られたか、という点に注目した呼び名で、和書は書物に記されている文字や絵画などの情報であるテクストがどこで作られたか、という点に注目した呼び名です。つまり、「和本」とはモノとして日本で作られた書物、「和書」とはテクストが日本で作られた書物を指します。

また、和本は大きく二つに分けられます。一つが、「**版本**」（板本・刊本とも）と呼ばれるテクストが印刷されている書物、もう一つが「**写本**」と呼ばれるテクストが手書きで記されている書物です。**代表的な装訂**には、次のようなものがあります。文末の見開きの図版「知っておきたい和本の基礎知識」も参考にしてください。

●糊で綴じられたもの
(1) **巻子本**　(2) **折本**　(3) **粘葉装**

●紙縒または糸で綴じられたもの
(4) **列帖装**（綴葉装とも）　(5) **袋綴**

このうち最もポピュラーな装訂は袋綴です。これは紙を文字が書かれている面を外側にして二つ折りにして重ね、折り目と反対側の端を糸や紙縒などで綴じた装訂です。

江戸時代は人間に関わる事物に身分があり、和本の装訂にもやはり身分がありましたが、最も上位にあったものが手書きの巻子本でした。

また、主に中世までの和本の写本に用いられた書型には、**四半本**（四つ半本とも）、**六半本**（六つ半本・**枡形本**とも）などがあります。

現在の書籍が文庫本ならA六判、コミックならB六判といったように、内容と書型に関連があるように、冊子体の版本の**主な書型と内容**には、おおよそ次のような関連がありました。

大本　＊ほぼB5判（大学ノートサイズ）
…仏書・漢籍・和歌・物語など学問の対象になるような書物

半紙本　＊ほぼA5判（学術書・文芸雑誌サイズ）
…大本と同ジャンルでやや一般向けのもの、唐本風のもの、俳諧、絵本など

中本　＊ほぼB6判（コミック本サイズ）
…草双紙、実用書など

小本　＊ほぼA6判（文庫本サイズ）
…携帯用の辞書類、洒落本、噺本、雑俳など

横本　＊横長のもの
…実用書、特に薬学関係書・人名録・出納帳など

高校までの授業では、古典文学のテクストが前近代にいかなる装訂・書型の書物に記されたかについて取り上げることはないと思いますが、そこには何らかの編集者や版元の意図が示されていることがあります。そのよい例が『おくのほそ道』の版本です。

『おくのほそ道』の書型・装訂は、元禄七年（一六九四）

成立の芭蕉定稿清書本の時点から、正方形に近く仕立てた六半本（枡形本）の袋綴であり、初版本はその清書本の表紙・題簽その他に至るまですべてを模して作られ、以後の改刻本でも、図版のようにそれを踏襲していることが知られています。そして、六半本（枡形本）の清書本を作らせたのは芭蕉の意志でした。六半本（枡形本）は鎌倉・室町期の歌書や物語の写本に多かった書型であることから、芭蕉は『おくのほそ道』を歌書につながるものとする意識を濃く持っていたと言われています（石川真弘「「わせの香や分入右は有磯海」考」）。このように和本の大きさや装訂は、著者の意識や内容を探る手がかりになるのです。

寛政元年刊『おくのほそ道』＊元禄版の覆刻（国文学研究資料館蔵、DOI：10.20730/200008248）

さて、和本を取り扱う際には、題簽（表紙に貼られた書名が書かれた紙片）・表紙・背・小口・角包み・版心・咽・匡郭といった用語が、実際の和本のどこを指しているのか知っておくとよいでしょう。そちらについては、文末の見開き図版を参照してください。

さらに、和本の楽しみの一つに、意外な本の「軽さ」あるいは「重さ」があります。その原因となるが、使用されている紙、つまり**料紙**です。紙にはさまざまな種類がありますが、主になめらかでずっしりとした重みを感じる雁皮の樹皮を材料とした(1)**鳥の子紙**、同じく雁皮が原料ですが薄く漉くことで軽さと透明感が感じられる(2)**薄様**、最も広く和本に用いられている楮の樹皮を材料とする(3)**楮紙**、雁皮と楮をまぜて漉いた(4)**斐楮交漉紙**などが知られています。

以上が、入門的な和本の用語です。しかし、文字で説明されてもイメージがしづらいと思います。そこで、次に和本をさらに知るためにお薦めな本やWEBサイトをご紹介します。ここでは、専門書は取り扱わず、無料で手に入れられたり、視聴できたりするものや、一般向けに書かれた本を取り上げます。

2　和本についてもっと学ぶ

和本について学ぶには、実物を手にとることが一番よいのですが、それは難しい方が多いと思います。そんな方にお薦めなのが、国文学研究資料館のWEBサイトで公開されている電子展示室『**和書のさまざま**』[*1]です。この電子展示では、日本古典籍の書誌学の基礎を学ぶことができます。動画もあり、ふんだんに画像が用いられたわかりやすい構成になっています。そして、このサイトの前身が、二〇一八年に国文学研究資料館で開催された通常展示ですが、その図録が、同館のリポジトリで公開されています。[*2]こちらは非営利目的ならば、改変せずクレジットを示せば複製や配布が可能です。装訂や書型などがわかりやすくレイアウトされており、児童や生徒にプリントとして配りたい時に利用でき、とても便利です。

国文学研究資料館のリポジトリで公開されている『和書のさまざま』の通常展示図録の表紙

もっと本格的に和本について学びたい方にお薦めなのが、Future Learn 慶應義塾大学のオンライン講座「**古書から読み解く日本の文化(1)——和本の世界**」[*3]です。この講座では、書物が日本の文化史に果たした役割や、アジアで使用されている主要な製本方法などを豊富な画像や動画で学ぶことができます。英語版と日本語版があり、期間限定で学ぶ無料コースと、期限のない有料コースとがあります。動画の一部は、教育的目的であれば授業利用もできます。使用されている動画はいずれも数分の短いものですので、実際の授業にも取り入れやすいと思います。

また、林望『**リンボウ先生の書物探偵帖**』（講談社文庫、二〇〇〇年、『書誌学の回廊』の改題本）は、難しそうな書

誌学の世界をわかりやすく、そしてのユーモアたっぷりに解説しています。

3　和本を授業で使う

では、和本を実際の授業で使うには、どういった点に気をつけるべきでしょうか。まずは、児童や生徒に和本の取り扱い方を説明する必要があります。

準備として、(1)素手で扱うため手を洗いしっかりと水分は拭います。(2)筆記用具は鉛筆を使用し、和本を汚したり、傷つけたりするペン・消しゴム・金属製品は使用しないように心がけます。

実際にさわる時の基本は、(1)水平な机において持ち上げないこと、(2)両手で丁寧に取り扱い、めくる時は文字のない余白部分をつまみ、和本を筆記用具や参考書や他の本と接触させないことです。要点は文末の見開きの図版にもまとめました。

このような取り扱いに関する説明は、動画の方が向いています。先ほど紹介した慶應義塾大学のオンライン講座には、「和本の取り扱いについて」という約三分の動画が公開されており、参考になります。

では、実際の授業ではどのように和本を取り上げたらよいのでしょうか。その**実践例**を簡単に紹介したいと思います。

まずは、鶴見大学図書館（横浜市鶴見区）が行っている**古典籍体験学習**です。古典籍のホンモノにさわって書物の歴史や文化を体験するというもので、半日から一日がかりの実践です。高学年の小学生を対象とし、和本にさわる時間と、和本を作る時間とに分けています。和本にさわる時間には、広めの教室などに机で島を複数作り、そこにテーマ別に和本を置きます。

横浜市内の小学校にて

児童は数分ずつ順番に島をめぐり、各机の担当者から説明を受けるというものです。詳細は近江弥穂子さんの実践報告をご参照ください。

この実践から、古典籍が持つ教材としての可能性を感じることができました。また、知っている地名や昔話などに関する和本が人気であること、明治本も児童にとっては十分古いのだということを学びました。

好評な取り組みですが、さわってもよい古典籍を五〇点以上、さわってはいけない貴重書を一五点以上、スタッフも一〇名以上必要とするため、同じ授業を行うことはなかなか難しいと思います。そこで、この体験授業をもとに、もっとコンパクトで、実際の授業にも取り入れられそうな実践として行ったのが、名古屋大学教育学部附属中学校での取り組みです。毎年、同校の加藤直志さん、愛知県立大学の三宅宏幸さん、そして筆者の三名で協働で行っている、「**くずし字による古典教育の試み**」の、七回目の実践授業です。

この授業では、古典に親しんでもらうこと、古典への興味関心を高めることを目的に、グループごとに異なる和本を配付し、文字・挿絵・大きさ・重さ・紙という五つの観点から、現代の書物との相違点と共通点を考察してもらい、くずし字で書かれている和本の内容についても書名や挿絵などをヒントにまとめてもらいました。

授業の後半にはグループごとの発表時間を設けましたが、生徒たちの鋭い考察に驚きました。同校ではくずし字資料を用いた特別授業を以前より実施していますが、本物の和本が持つ効用でしょうか、いずれのグループも例年より課題の考察がより詳細でした。詳しくは、前章の加藤直志さんの実践報告をご参照ください。

しかし、授業に使用できそうな和本を一〇点以上所蔵している授業者は少ないと思います。では、和本はどこから手に入れたらよいのでしょうか。

4　和本を手に入れる

和本と聞くと、「高価なもの」というイメージがありますが、実際の値段はピンキリです。例えば次の写真は、神田の日本書房さんに、「小学生が好きそうな高くない和本」という条件で選書を依頼した際に、提案いた

だいたものです。この写真には、三〇〇円から九八〇〇円までの和本が載っています。例えば、左上の特小本（豆本とも）と呼ばれる手のひらサイズの和本は、歌仙絵入りの『百人一首』ですが、状態があまり良くないため五〇〇円でした。このように特別な予算がなくても、購入可能な和本はたくさんあります。

ただし、和本は定価がありませんので、同じような和本でも本屋によって（あるいは同じ本屋でも仕入れ値など状況によって）値段は異なります。お薦めは和本を取り扱う**良心的で信頼できる古書店**を探すことです。できれば勤務先や通っている学校、あるいは自宅から遠くないお店であれば、定期的に通えて、店主とも仲良くなれるかもしれません。しかし、古書店に通うのは地理的に難しいという方も多いと思います。

古書店で直接購入する方法のほか、古書店が年に数回発行している目録や、「日本の古本屋」というWEBサイトでも購入可能です。他には、東京古典会や大阪古典会が開催している大入札会のような古典籍のオークションもありますが、これは選りすぐりの稀覯本が出品されるもので、高額なものが多いことから利用は難しいと思います。また、ヤフオク！のようなオークションサイトにもたくさんの和本が出品されていますが、面白い和本を安く手に入れるには、習熟が必要で初心者には不向きです。

もし関西地区にお住まいであれば、安価で面白い和本は、京都古書研究会が定期的に開催している古本まつりに出品されることが多いようです。神田でも東京古書会館の地下即売会が定期的に開催されていますし、最近はSNSで販売している古書店もあります。このように手に入れる方法はさまざまあります。

では、手に入れた和本は、どのように保管したらよいのでしょうか。**和本の保管方法**は、⑴柔らかいため横置き保管が基本で、⑵防虫剤を本棚か保存箱へ入れ、⑶定期的な虫干しをすることが大切です。これらを怠ると、最悪、虫に食われた和本の残骸を見ることになりますので、ご注意ください。しかし、少量の和本であれば、保管はそれほど大変ではありません。

そして、「購入するのはちょっと」という方や、「多くの和本の中からその都度必要な和本を選びたい」、という方にお薦めなのが、「**和本バンク**」の利用です。先述した名古屋大学教育学部附属中学校での授業も、こちらに所蔵される和本を利用しました。

「和本バンク」は、古典教材開発研究センターが行っている教育現場への古典籍貸出プロジェクトです。研究者や篤志家から寄贈された和本を、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校へ無償で貸し出しています。詳しくは同志社大学古典教材開発研究センターのWEBサイト、ならびに実践2「古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」のすすめ」をご参照ください。

和本の知識を少し得るだけでも、古典の世界はぐっと広がります。ご紹介したサイトや書籍を通して、一人でも多くの方に、古典籍の世界の面白さを感じていただけることを願っています。

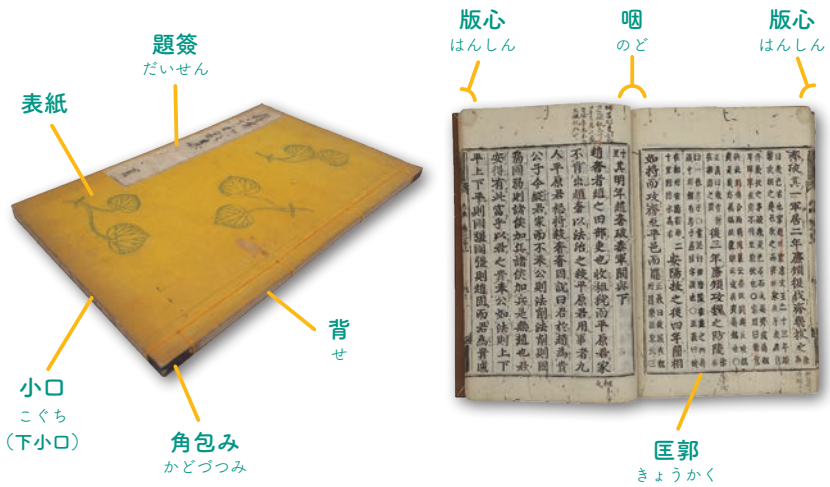
注

＊1　国文学研究資料館　電子展示室「和書のさまざま」
https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/index.html

＊2　国文学研究資料館編『和書のさまざま―国文学研究資料館通常展示図録』（国文学研究資料館、二〇一八年）
http://id.nii.ac.jp/1283/00003721/

＊3　Future Learn 慶應義塾大学オンライン講座「古書から読み解く日本の文化⑴：和本の世界」
https://www.futurelearn.com/courses/japanese-rare-books-culture-j

和本の部位



和本の取り扱い方

準備

① 手を洗い、ハンカチなどでしっかり水分を拭う
＊時計・アクセサリー類は外す
＊手袋は使用しない

② 筆記用具は鉛筆を使う
＊ペン（ボールペン・サインペンなど）は使用しない
＊消しゴムや金属製品の使用はしない

基本

① 水平で清潔な机に置き、机から持ち上げない

② 両手で丁寧に取り扱う
＊めくるときは文字のない余白部分をつまむ
＊筆記用具・参考書や他の和本と接触させない

参考｜国文学研究資料館編『和書のさまざま』 http://id.nii.ac.jp/1283/00003721/
堀川貴司『書誌学入門―古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、2010 年

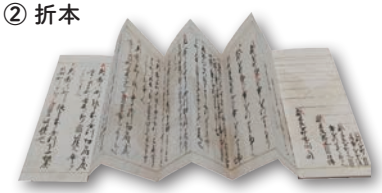
代表的な装訂

● 糊（のり）によるもの
① 巻子本 かんすぼん
② 折本 おりほん
③ 粘葉装 でっちょうそう

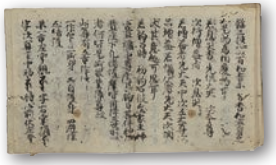
● 紙縒（こより）または糸によるもの
④ 列帖装 れつじょうそう・れっちょうそう
＊綴葉装（てつようそう・てっちょうそう）とも
⑤ 袋綴 ふくろとじ

① 巻子本

② 折本



③ 粘葉装



④ 列帖装（綴葉装）

⑤ 袋綴

紙を２つ折りにして重ね、折り目と反対側の端を糸や紙縒などで綴じる

主な書型＝大きさ

● 中世までの和文の写本（手書きの本）
① 四半本 しはんぼん
＊四つ半本（よつはんぼん）とも
＊全紙の四分の１の大きさ
② 六半本 ろくはんぼん ＝枡形本 ますがたぼん
＊六つ半本（むつはんぼん）とも
＊全紙の六分の１の大きさ　＊ほぼ正方形

● 冊子本の版本（印刷された本）
③ 大本 おおほん　＊ほぼ B5 判
④ 半紙本 はんしぼん　＊ほぼ A5 判
⑤ 中本 ちゅうほん・ちゅうぼん　＊ほぼ B6 判
⑥ 小本 こほん　＊ほぼ A6 判
⑦ 横本 よこほん　＊横長のもの

図版｜佐々木孝浩所蔵本